

〔様式 11〕

(平成 17 年度芸術拠点形成事業 (展覧会事業等支援))

事業名: 長崎県美術館『遠隔授業』

事業者名: 長崎県美術館

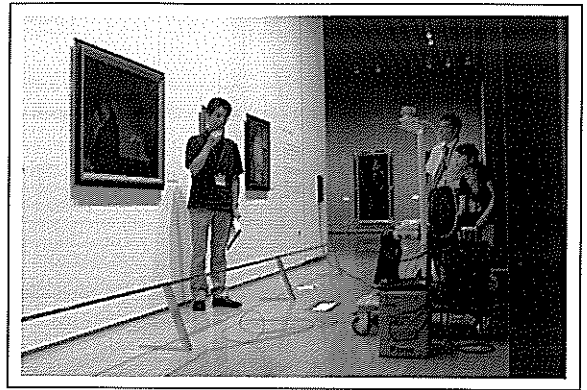
連携事業者名: 長崎県立鹿町工業高等学校

住所: 長崎県長崎市出島町 2 番 1 号

TEL: 095-833-2110

FAX: 095-833-2115

HP アドレス: <http://www.nagasaki-museum.jp>



① 施設概要

地域の活性化及び芸術文化活動の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習の機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、生涯学習に対応した文化的環境の整備を図り、もって新たな長崎県の文化の創出に寄与するため、長崎県美術館を設置。美術館の建築の大きな特徴は、運河を挟み西側と東側ふたつの棟によって構成されること。「ギャラリー棟」と呼ばれる西側の棟にはエントランスや県民ギャラリー、ホールやアトリエなど気軽にご利用いただける「開く」機能が、「美術館棟」と呼ばれる東側の棟には事務室や研究室、収蔵庫や作品搬出入口、企画展示室や常設展示室など美術館としてオーソドックスな「守る」機能が集約されている。「長崎水辺の森公園」に隣接する美術館は、公園の一部としての機能も果たす。ギャラリー棟の一部には盛り土を施したうえ植栽し、屋上も芝などで緑化して、公園との緑の連続を図る。また、彫刻なども設置する屋上庭園には美術館の中からも外からも自由にアクセス可能。水辺に映える緑の中、自然を感じながら美術と親しめる。

② 事業の意図目的

未来を担う児童・生徒にとって、優れた美術作品に触れ、体験することは豊かな感性、共感性、創造性を育む上で大変重要なことであり、美術館は児童・生徒の心豊かな成長にとってきわめて大切な場になる。離島や遠隔地を抱える本県において広く美術振興をはかり、多くの児童・生徒が文化にふれる機会をつくり、美術館の効果的な活用を図るプログラムを充実させる。

③ 事業概要

本事業は、遠隔地の学校と美術館を IT 機器で直接結んで双方向対話型の授業を行う事業である。展示室から館職員の解説を聞くことで鑑賞学習の理解を深める支援を行う。

《学習計画》

＜第 1 回目＞ 「長崎県美術館の施設概要と収蔵作品」 7 月

＜第 2 回目＞ 「長崎ゆかりの作家を知る」 9 月

＜第 3 回目＞ 「日本と西洋の絵画表現」 3 月

④ 事業の製作物及び報告書等

ワークシート 報告書冊子

⑤ 参加者状況

参加者人数	延べ	850 人
内 訳	生徒	200 名 × 3 回
	美術館職員	11 人
	見学者	15 人
	高校職員	2 名
	県教育委員会	2 人

【事業の実施状況】

○遠隔授業事前学習

日時：2005年7月4日 3時限 11:05～11:55

場所：長崎県立鹿町工業高等学校 視聴覚教室

題材：長崎県美術館概要 絵画鑑賞の方法

授業者：講師 / 堺 雅子（長崎県美術館 教育普及担当）

現場指導 / 山下嘉仁（鹿町工業高等学校 教諭）

○タイムテーブル

講師 / テーマの紹介「美術館概要・絵画鑑賞の方法」

○講師による説明

遠隔授業についてのイントロダクション

0:05:美術館開館コマーシャル(約3分 DVD) プロジェクター使用

0:08:質疑応答

0:15:美術館の役割と機能について(映像:約10分)

○美術館の外観、内観をVTRにより観察

1. 設置目的 2. コンセプト 3. 沿革 4. 主な事業内容

0:25:質疑応答

0:30:収蔵作品について(映像による鑑賞:約15分)

○スペイン美術について(パブロ・ピカソ「鳩のある静物」)

○須磨コレクションについて(ファン・パントーハ・デ・ラ・クルス「フェンテス伯爵の肖像」)

○長崎ゆかりの美術について(山本森之助「和洋合奏之図」)

●美術館の主な収蔵作品を鑑賞。

生徒 講師への質問

講師 生徒への応答

0:45:講師側による学習のまとめ、次回の内容説明

平成17年度 第1回 遠隔授業

長崎県立鹿町工業高等学校、長崎県美術館 連携事業

1 期日 平成17年7月14日(木)、15(金)

2 受講者 長崎県立鹿町工業高等学校 第1～3学年 200名

3 授業者 長崎県美術館 教育普及担当 堺 雅子 濱垣 明日香 松尾 千裕
学芸員 福満 葉子 森園 敦 伊藤 晴子
長崎県立鹿町工業高等学校 美術担当 山下 嘉仁 教諭

4 授業内容

- (1) 美術館概要(映像:美術館CM1分間、美術館紹介VTR5分間)
- (2) 鑑賞学習1(長崎県美術館 収蔵作品:常設展示室1・2)
- (3) 鑑賞学習2(長崎県美術館 収蔵作品:常設展示室3・5)
- (4) 感想・質疑・応答

5 タイムテーブル

時間	進行・内容	備考
12:00	○ 機器設置	(高校視聴覚室・美術館常設室1)
12:30	○ 通信テスト	(高校視聴覚室⇔美術館常設室1)
13:20	○ 生徒入場	(高校視聴覚教室)
13:30	○ 進行1 「遠隔授業」開始のごあいさつ ① 美術館職員あいさつ ② 美術館館長あいさつ ③ 高校配置美術館職員あいさつ	(美術館→高校) (美術館→高校) (高校→美術館)
13:40	○ 美術館概要 ① 美術館CM(映像約1分間) ② 美術館と高校の位置関係(地図にて説明) ③ 美術館の紹介(映像約5分間・説明5分間)	(美術館→高校) (美術館→高校) (美術館→高校)
13:55	○ 鑑賞学習1 ◆常設展示室1・2「植物展 木をみて 森もみる」 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">展示風景→作品1→作品2→作品3</div> 作品1《花づくし》	(教育担当による進行。 学芸員による解説) (導入:教育担当)

	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークシート記入 ●質問→応答 ●作品についての解説 	(記入：高校生) (質問：教育担当 応答：高校生) (解説：学芸員)
14：05	作品2《雨後》 <ul style="list-style-type: none"> ●質問→応答 ●作品についての解説 	(質問：教育担当 応答：高校生) (解説：学芸員)
14：10	作品3《終演》 <ul style="list-style-type: none"> ●質問→応答 ●ワークシート記入 ●作品についての解説 	(質問：教育担当 応答：高校生) (記入：高校生) (解説：学芸員)
14：20		
10 分間	< 休 憩 >	設置位置 1 室→3・5 室へ移動
14：30	○ 最近の館内の様子 (映像 V T R 5 分間)	(美術館→高校)
14：35	○ 鑑賞学習 2 ◆常設展示室3「須磨コレクション」 ◆常設展示室5「スペイン近現代美術」 <div>展示風景→作品1→作品2→作品3→作品4</div>	
	作品1《須磨彌吉郎の肖像》 <ul style="list-style-type: none"> ●須磨コレクションについての説明 ●質問→応答 ●作品についての解説 	(導入：教育担当) (解説：学芸員) (質問：教育担当 応答：高校生) (解説：学芸員)
14：45	作品2《フェンテス伯爵の肖像》 <ul style="list-style-type: none"> ●質問→応答 ●作品についての解説 	(質問：教育担当 応答：高校生) (解説：学芸員)
14：50	作品3《鳩のある静物》 <ul style="list-style-type: none"> ●質問→応答 ●作品についての解説 	(質問：教育担当 応答：高校生) (解説：学芸員)
14：55	作品4《黒い背景の肖像》 近景→遠景へ <ul style="list-style-type: none"> ●質問→応答 ●作品についての解説 	(質問：教育担当 応答：高校生) (解説：学芸員)
15：00	○ 感想・質疑・応答	
	□ワークシートに感想・質問を記入	(記入：高校生)
15：10	□感想を発表	(高校生→教育担当)
15：15	□質疑→応答	(高校生→教育担当・学芸員)
15：20	○授業終了 < 次回の内容 >	(美術館職員)
	○授業終了のあいさつ	(高校)

< 作者解説 >

彭城貞徳(1858～1939) 安政5(1858)年、長崎市袋町の唐通事の家生まれた。明治8(1875)年に日本最初の油彩画家といわれる高橋由一の主宰する天絵社に入り、また翌年には日本で最初の官立美術学校である工部美術学校に一期生として入学するなど、彭城は近代日本洋画の黎明期と歩みを同じくしている。31歳のとき、長崎に帰郷し洋画塾を開き、後進の育成にも尽力した。彭城の作品は、当時流行した横長の画面に遠近法を駆使した、いわばパノラマ写真のような画面作りが特徴的である。

山本森之助(1877～1928) 明治10(1877)年、長崎市内の料亭・一力の長男として生まれる。18歳のとき上京、新設の東京美術学校西洋画専科に入学し、黒田清輝教室に学ぶ。その後、白馬会に出品を繰り返すなど、明るい色彩を取り入れた外光派の一人として日本洋画壇に名を連ねることになる。40代半ばにしてヨーロッパ留学を果たした森之助は、モネに強い影響を受け、日本では得ることのできない大気、そのもとに輝く木々や家屋を精力的に描いた。

鴨居羊子(1924～1991) 大阪府豊中市生まれ。服飾デザイナー、画家、エッセイスト。読売新聞の記者を経て、昭和30年女性向下着デザイナーとして独立、斬新で夢のある商品を送り出し下着ブームの火付け役となる。デザイナー・画家として活躍する傍ら執筆活動にも才能を発揮し、軽妙にして幻想的、快活で味わいの深いエッセイを数多く著わしている。

パブロ・ピカソ PICASSO, Pablo 1881～ 1973 マラガに生まれ、7歳頃から画家であった父親に絵を学ぶ。16歳でマドリードの王立美術学校に合格するが、伝統的な教育に飽き足らず世紀末バルセロナの芸術運動に参加。1900年に初めてパリに行き、やがて定住する。貧しい人々の姿を暗い色調で描いた「青の時代」、サーカスなどをテーマにした叙情的な「ばら色の時代」を経て、次第に堅固な画面構築に向かう。そして人物と空間を大胆にデフォルメした《アヴィニヨンの娘たち》(1906-07年)、三次元の物体をばらばらに解体して二次元の平面上に再構成する「キュビズム」の作品により、現代絵画の道を切り開いた。その後も次々と新しい試みを行いながら91歳で世を去るまで精力的な創作活動を行い、20世紀最大の巨匠の名をほしいままにした。

マヌエル・バルデス・ブラスコ VALDÉS BLASCO, Manuel 1942～ 画家、版画家、彫刻家と活動は多岐に渡る。マヌエル・バルデスは1964年、ラファエル・ソルベスと共にエキボ・クロニカというグループを結成する。そこでは二人の共同制作によって、過去の美術作品を引用し、その作品を再解釈、再構成していくという制作態度をとっていた。原作から形態こそ借りてはいるが、そこに内在する要素は徹底的に排除され、バルデス独自の表現へとすり替えられる。現在もスペインの前衛芸術家として第一線で活躍している。

平成17年度 第2回 遠隔授業

長崎県立鹿町工業高等学校、長崎県美術館 連携事業

- 1 期日 平成17年9月5日(月)、6(火)→※天候のため5日に2時間実行
 時間：5時間目 13:00～13:50 (50分間)
 5日(月) 機械科、電子工学科 化学工学科 120名
 6日(火) 電気科、情報技術科 80名 計200名

- 2 受講者 長崎県立鹿町工業高等学校 第1学年 200名

- 3 授業者 長崎県美術館 教育普及担当 堺 雅子 濱垣 明日香 松尾 千裕
 学芸員 森園 敦
 長崎県立鹿町工業高等学校 美術担当 山下 嘉仁 教諭

4 授業内容

- (1) 前回の授業をふり返る
 (2) 鑑賞学習(長崎県美術館 収蔵作品：常設展示室 鴨居玲4点)
 (3) 感想・質疑・応答

5 タイムテーブル

時間	進行・内容	備考
	<p>○ 機器設置</p> <p>○ 通信テスト</p> <p>○ 生徒入場</p> <p>○ 進行1 「遠隔授業」開始のごあいさつ</p> <p>④ 鹿町工業生徒あいさつ</p> <p>⑤ 美術館職員あいさつ</p> <p>○ 前回の授業を確認</p> <p>④ 第1回目の授業をふり返る。 (生徒さんの感想より)</p> <p>○ 鑑賞学習</p> <p>◆常設展示室 鴨居玲 4点</p> <p>※鴨居玲について(人物像、作品、時代背景)</p> <p>展示風景→作品1→作品2→作品3→作品4</p> <p>作品1《自画像》</p> <p>●作品についての解説</p> <p>●質問→応答</p> <p>作品2《ひざをかかえる少女》</p> <p>●作品についての解説</p> <p>●質問→応答</p>	<p>(高校視聴覚室・美術館常設室)</p> <p>(高校視聴覚室⇔美術館常設室)</p> <p>(高校視聴覚教室)</p> <p>(高校→美術館)</p> <p>(美術館→高校)</p> <p>(高校→美術館)</p> <p>(高校→美術館)</p> <p>(教育担当による進行。 学芸員による解説)</p> <p>(解説：学芸員)</p> <p>(質問：高校生 応答：学芸員)</p> <p>(解説：学芸員)</p> <p>(質問：高校生 応答：学芸員)</p>

	<p>作品3《蛾》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作品についての解説 ●質問→応答 <p>作品4《夜》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作品についての解説 ●質問→応答 <p>※その他の鴨居玲作品を紹介（静止画像）</p> <p>○感想・質疑・応答</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ワークシートに感想・質問を記入 <input type="checkbox"/>感想を発表 <input type="checkbox"/>質疑→応答 <p>○授業修了　＜次回の内容＞</p> <p>――</p> <p>○授業修了のあいさつ</p>	<p>（解説：学芸員）</p> <p>（質問：高校生 応答：学芸員）</p> <p>（解説：学芸員）</p> <p>（質問：高校生 応答：学芸員）</p> <p>（紹介：学芸員）</p> <p>（記入：高校生）</p> <p>（高校生→教育担当）</p> <p>（高校生→教育担当・学芸員）</p> <p>（美術館職員）</p> <p>（高校）</p>
--	--	---

※授業所感

授業内容については、今回、長崎ゆかりである鴨居玲一人の作家について鑑賞を行い、時代背景、作家の周辺および心理的状況に深くふれたことにより、「作家の心情により近づいていく」という本来の鑑賞授業を形成するに至った。また、高校側は美術担当教諭によって全体の意見・感想を的確に集約し進行された。生徒の反応や感想も具体的且つ作者の心情を読み取ろうとする姿勢が伺え、より絵を観ることへの興味・関心が高まったと評価できる。

機材の設置・技術面については、とくにパケット・ロスも無く、映像・音声双方が良好であった。改善点としては、数点の作品を写す時、間にカメラ移動が入るが、パソコンの資料に切替え画面のブレを極力少なくするよう工夫した。今後もカメラ移動時は完全に静止画像を用い、切替手順を事前調整し実行する。

平成17年度 第3回 遠隔授業

長崎県立鹿町工業高等学校、長崎県美術館 連携事業

1 期日 平成18年3月6日(月)、→2時間実行

時間：5時間目 13:10～13:55 (45分間)

機械科、電子工学科 化学工学科 120名

時間：6時間目 14:05～14:50 (45分間)

電気科、情報技術科

80名

計200名

2 受講者 長崎県立鹿町工業高等学校 第1学年 200名

3 授業者 長崎県美術館 教育普及担当 堺 雅子 濱垣 明日香 松尾 千裕
学芸員 遠山 景子 森園 敦
長崎県立鹿町工業高等学校 美術担当 山下 嘉仁 教諭

4 授業内容

(1) 本日の授業について



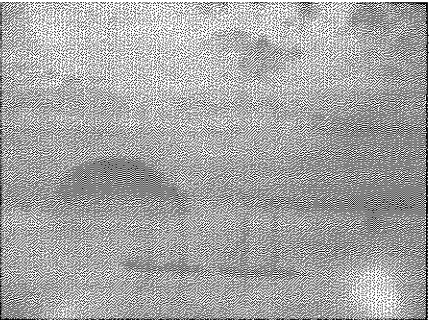
(2) 鑑賞学習(長崎県美術館 収蔵作品：常設展示室 3点)

「日本と西洋の絵画表現」

(3) 感想・質疑・応答

5 タイムテーブル

時間	進行・内容	備考
13:10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 機器設置 ○ 通信テスト ○ 生徒入場 ○ 進行1 「遠隔授業」開始のごあいさつ <ul style="list-style-type: none"> ⑥ 鹿町工業生徒あいさつ ⑦ 美術館職員あいさつ ○ 本日の授業を確認 「日本と西洋の絵画表現」について ○ 鑑賞学習 <ul style="list-style-type: none"> ◆常設展示室 3点 作品1：マリアノ・フォルトゥーニ《東洋の幻想》 作品2：クロード・モネ《アンティープ岬》 作品3：山本森之助《蒲郡の朝》 展示風景→作品1→作品2→作品3 	<p>(高校視聴覚室・美術館常設室)</p> <p>(高校視聴覚室⇔美術館常設室)</p> <p>(高校視聴覚教室)</p> <p>(教育担当による進行。 学芸員による解説)</p> <p>◇導入：ジャポニズムについて説明</p>
13:15	作品1：マリアノ・フォルトゥーニ《東洋の幻想》	◇展開 1

	<p>●作品についての解説 ●質疑→応答</p> 	<p>・ヨーロッパの画家が東洋をイメージした作品として紹介。 ・鑑賞のポイントであるモチーフについて ①傘の描き方→どこの国の傘か。 ②着物の形や着方→ 〃 ③水辺に集う女性→ ヨーロッパでよく題材として描かれる様式。 ・東洋（未知なる国）への憧れを描いたこの作品の魅力を話す。</p>
13 : 25	<p>作品 2 : クロード・モネ《アンティープ岬》</p> <p>●作品についての解説 ●質問→応答</p> 	<p>◇展開 2 ・モネが日本より受けた影響を説明。（構図など） ・日本人が描く、「空気感」について パース（地平線・水平線）の捉え方</p>
13 : 35	<p>作品 3 : 山本森之助《蒲郡の朝》</p> <p>●作品についての解説 ●質問→応答</p> 	<p>◇展開 3 ・モネ《睡蓮》と森之助《雨後》の比較。（構図・色調） ・モネ《日の出》と森之助《蒲郡の朝》の比較。（構図・色調）</p>
13 : 45	<p>※途中、比較資料として風景画を紹介（PC 静止画像） 《日の出》と《蒲郡の朝》、《睡蓮》と《雨後》</p> <p>○ 感想・質疑・応答</p> <p>□ワークシートに感想・質問を記入（5 分） □感想を発表（5 分） □質疑→応答</p>	<p>◇まとめ ○日本と西洋の相互の影響について。 ○ 2～3 人の生徒さんより感想。</p>
13 : 55	<p>○授業修了 <次回の内容> ○授業修了のあいさつ</p>	<p>○鴨居玲展展覧会について</p>

【参加者の反応】 長崎県立鹿町工業高等学校 生徒感想より

1年 M科 井手耕三

浮世絵と比べてみたら、油で描いているのがよく分かりました。西洋の人たちにとって日本はどう思われていたのだろうと思いました。この絵をみると、日本という国は西洋の人たちにとってとても珍しく、興味深い国だったのだと思いました。

モネの『睡蓮』と山本森之助の《雨後》の絵は、遠近感が使われてないのに綺麗な絵だと思いました。こういうところに共通点があるのだなと気づきました。

西洋の画家は日本の影響を受けて、それを取り入れているけど、山本森之助のように西洋の影響を受けた日本人の画家もいることを知ることができました

1年 機械科 松本はるな

絵の具が粉に油を交ぜて作っていたので、画家が持ち歩いていたというのを初めて知った。日本の美術に興味を持つ人が沢山いるんだなと思った。

油絵では濃い色合いの絵ができるのがほとんどだと思っていましたが、クロード・モネの絵など薄い透きとおった感じにできているのを見てすごいと思いました。お互いに影響しあって沢山の作品をできているのを見て、鎖国がなくならなかったらこんな作品はそんなになかったのだなと思いました。日本人の価値観や美的センスは世界中人と違うけれど、根本的な美に関するところは、似ている所があるんじゃないかと思いました。

【芸術拠点形成事業を実施したことによる効果等】

「遠隔授業の現状と今後の課題」

長崎県立鹿町工業高等学校

山下 嘉 仁

美術Ⅰの教育目標である【絵画、彫塑、デザインの造形的な創造活動を通して、美的体験を豊かにし、表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、美術を愛好する心情を養う。】と、長崎県美術館の双方向対話型の授業である遠隔授業の主旨が一致し、「長崎県美術館収蔵作品鑑賞」「長崎ゆかりの画家／鴨居玲について」「日本と西洋の絵画表現」をテーマに、本校にて3回実施した。作品の鑑賞では、丁寧で分かりやすい学芸員の方々の解説に耳をかたむけながら、感想や質問のワークシートへの記入等、熱心な授業への取り組みが見られた。

現段階では、作品の全体像が主な鑑賞のポイントであるが、将来的には平面作品・立体作品のマチエールのよさや美しさ・質感・量感までも鑑賞できるようになれば、さらに効果が表れることだろう。映像メディア作品においては現状での鑑賞環境で十分な効果的な授業が可能と思われる。また、補足説明や質疑への応答がリアルタイムで行われたことは遠隔地の教育現場として大変意義深いことであった。

1年間の遠隔授業を通しての生徒の感想・意見をまとめると、芸術作品に触れるよい機会になったとともに、映像メディアに対する関心や郷土愛の向上、さらには美術館に行ってみたいという動機付けにつながり、長期的・継続的な授業展開がなされれば生涯を通した学習の素晴らしい機会となっていくことだろう。今後の情報技術の進歩によりネットワークの拡大が行われれば、高校教育の現場にとどまらず多様な教育様式での展開と質的発展が大いに期待できると思われる。